

2026 年度 宮城学院女子大学帰国子女入学試験問題
学芸学部心理行動科学科（小論文）

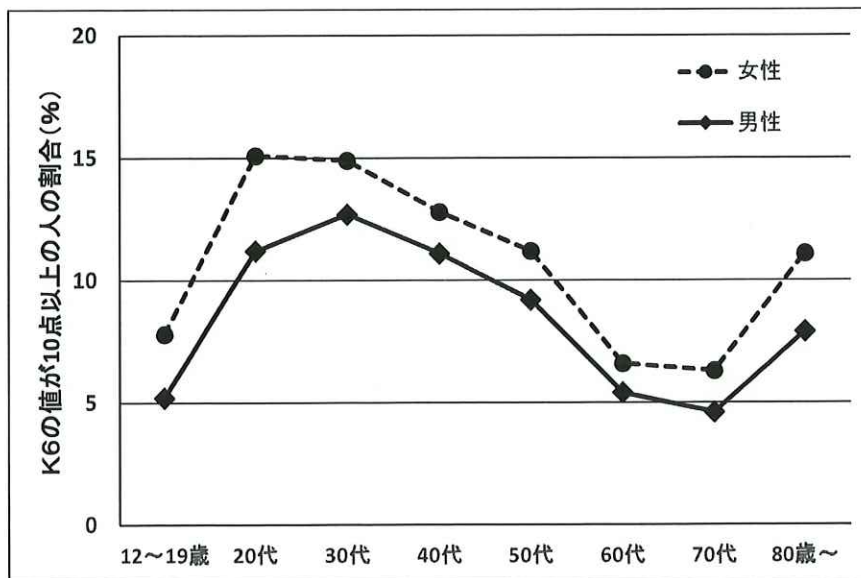
下の図は、厚生労働省が実施している「2022（令和4）年国民生活基礎調査」の中で「心の状態」を表す指標とされる「K6」について、一定以上の心理的ストレスを抱えているとされる10点以上の人の割合を表したグラフである。この図を見て、以下の2つの間に答えなさい。

参考：K6は米国のKesslerらによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。「気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」等の6つの質問について5段階（「まったくない」（0点）、「少しだけ」（1点）、「ときどき」（2点）、「たいてい」（3点）、「いつも」（4点））で点数化する。合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があると考えられている。（厚生労働省, 2023）

問1）図から読み取ることができる事実を、200字程度で書きなさい。

問2）問1で読み取った事実を踏まえて、そのような差を生じさせた個人の特性や社会的背景について、あなたの考えを600字程度で述べなさい。

図. 「K6」の値が10点以上の人の割合



出典：厚生労働省「2022（令和4）年国民生活基礎調査」に基づいて作成

2026 年度 宮城学院女子大学帰国子女入学試験問題

学芸学部心理行動科学科（小論文）【出題意図・解答例】

図に示されている事実を正確に読み取る力、また、その理由について社会的背景と関連づけて考察する力、そしてこれらを与えられた条件に合致した適切な文章で表現できる能力を問う。

【解答例】

設問 1 図からは、まず年代によって高ストレス者の割合が変化している。すなわち、若年層で低く、20 代、30 代にかけて高まったあと、70 代にかけて低くなり、80 歳以上で再び上がっていることが読み取れる。また、性別による高ストレス者の割合は、全年代で女性の方が男性よりも高いと言える。さらに、年代と男女を考慮すると、高ストレス者の割合は、女性が 20 代で最も高いのに対し、男性は 30 代で最も高くなることがわかる。

192 字

設問 2 K 6 は合計点数が高いほど心理的ストレスが高いとされるので、プロットが上にあればあるほど、ストレスが高くなる傾向を示すと言える。この前提に基づいて考えていくと、まず、全年代において女性の方が男性よりもストレスが高いことがわかる。その理由としては、女性が男性よりもストレスと感じやすい特性を持つこと、あるいは、女性が男性よりもストレスを抱えやすい社会であることなどがあげられるだろう。私は、その両方が作用して、女性の方が精神的に問題を抱える人の割合が多い結果になったと考える。その背景には男性優位の社会や、妊娠・出産・育児に関する理解がないことなどがあるのではないだろうか。

一方で、年代による差を見ると、男女ともに 30 代、40 代で高いことがわかる。この年代は、親としても、そして仕事でも高いパフォーマンスを要求される年代だと思うので、そのプレッシャーによってストレスが高くなるのだと思う。また、ストレスの高さは年齢とともに減っていくが、80 歳代以上になると再び上昇する。これは、健康を害することや、死が近づくことによるストレスが高まることを示していると思う。さらに、ストレスのピークの男女差については、女性の方が 20 代の結婚に対するプレッシャーが高いことがストレスを高めているのではないだろうか。

このようなデータを詳しく分析して対策を打つことで、ストレスのない社会に近づいたらいいなと思う。

589 字